がんばろう
末崎！
津波なんかに
負けない！

館報まっさき

第３２９号
令和４年５月２０日
大船渡市立
末崎地区公民館
電話（F兼）29-2955

末崎町の石碑・祠・神社

57 古峯神社 （ふるみねじんじゃ・こみねじんじゃ）について
その２

(4) 講中と代参

古峯神社には、講組織をもち、交替で代参を行う講中があります。

講とは、古峯神社を参拝するため、崇敬する人々が集まって組織する仲間のことです。代参とは、講員の中から毎年、幾人か選出（くじによるところがおおい）し、講中の代表で古峯神社に参拝し、ご祈祷の御札を受けて、くじに当らなかった講員に御札を授与する役割の人のことです。

(5) 船河原の講中の例

現在でも船河原に講中があり、当番制で、毎年 1 月 21 日頃宮崎宮司にお願いして祭りを行っています。

船河原公民館に備えられている講中の当番表に書かれている記録を見ると、昭和 28(1953)年、44(1969)年、58(1983)年に団体で栃木県の古峯神社に参拝しています。 28 年と 44 年には男性が参拝し、58 年には女性が参拝しています。昔は旅費を積立していたようですが、最近は参加した人がその時自己負担をしています。また、団体で参拝する以外は、代参等は行っていません。 このように、本来の講中からは少し変化はしていますが、現在でも講中の仲間が集まり毎年、祭りを行っているのは大変貴重であります。

(6) 末崎町の古峯神社碑 （4 カ所）

① 船河原 旧県道沿い
② 小田 愛宕神社 境内
③ 梅神 八幡神社 境内
④ 泊里 熊野神社 境内

泊里熊野神社境内の古峯神社碑

船河原 古峯神社碑

空飛ぶクルマ

未来の乗り物と思われてきた「空飛ぶクルマ」の実用化が、いよいよ秒読み段階に入ったといわれている。渋滞で混雑する道を避け、空飛ぶクルマで目的地まで一飛びで行く。そんな世界が間もなく現実なものになろうとしているのだ。

慶応義塾大学大学院付属システムデザイン・マネジメント研究所顧問の中野冠先生は、空飛ぶクルマが実用化されると、私たちの社会は大きく変わる。国はすでに政策協議を始めている。国土交通省は、交通ルールや離着陸場の整備規則の検討を始め、経済産業省は新産業の勃興を期待してサポート体制を整えようとしている。企業もバッテリーなどの技術革新に挑み、空飛ぶクルマを使った新事業の検討も始まっている。人々の生活が変わり、便利になる半面、騒音問題などが発生するので実用化の前に住民の理解を高めておくことが重要だともいっている。

世界の空飛ぶクルマの開発状況は、アメリカ、ドイツ、中国が進んでいる。韓国もアメリカ在住の研究者を呼び戻して開発を進めている。空飛ぶクルマは、無人ドローンとともに軍事技術に近いためアメリカや中国などでは国が援助しているので、技術開発が猛スピードで進んでいる。世界では三百から四百社の企業が開発競争を繰り広げ、すでに多くの企業が試験飛行に成功し、投資家から資金を集めて上場している企業もある。ところが日本は投資家からの資金援助が少なく開発が遅れているという。

日本のベンチャー企業が開発しているのは、諸外国と違って、1〜2人乗りの小型のもので離着陸にも場所をとらない小回りのきくものである。2025年に開催される「大阪・関西万博」では、会場内で空飛ぶクルマを飛ばす計画を立てているので体験できるであろう。

空飛ぶクルマとは、明確な定義はないが、二つのカテゴリーに分かれている。

①電動で垂直に離着陸する空の移動に特化したタイプ。一般のドローンに近く、滑走路は不要で道路も走らない。構造的には、このタイプが主流である。バッテリーやモーター、自動運転の技術開発も期待されるから産業振興としても重要である。

②空陸両用車。車から翼が出て航空機に変身し、滑走路を走って飛び立ち、再び滑走路に戻ってきて着陸し、両翼を畳んで格納して車の姿に戻って道路を走るタイプ。重量があるので、現時点では滑走路が必要である。

空飛ぶクルマの活用でもたらされる効果。

①**スマートな移動の実現**‥道路交通の枠にとらわれない立体的な移動が可能に目的地に向かう際、電車やバスタクシーなどを乗り継ぐ回数が減り、道路に依存していた経路もほぼ直線で結ぶことが可能となるため、航行距離や所要時間を大幅に短縮することができる。また、比較的本島と近距離に位置する離島への交通手段としても活用可能。

②**緊急車両への活用**‥災害や事故現場に柔軟に対応交通事故などの際、救急車両として活用すれば、到着時間を大幅に短縮し対応できる。また、大規模災害によって道路交通が遮断された場合も、迅速な救助や現状把握、調査活動などをスムーズに行うことができる。

③**新たな観光資源化**‥誘客効果は絶大移動しながら優雅な旅を楽しんだり、ヘリコプター遊覧の簡易バージョンとして安価に楽しんだりすることもできるので観光の目玉となる。

④**物流への活用**‥ドローンの応用形で物流でも活躍空飛ぶクルマは一定程度の荷物を運ぶこともできる。アクセスの悪い場所への効率的な宅配など、物流面への貢献にも期待大。今後、一層進化しあらたな活用が生み出されることを期待したい。

★良い眠りとは？

快適な生活を送るには、先ずは健康な体を維持すること。そのためには、バランスいい食事と良い睡眠、適度な運動といわれるが、その良い睡眠を得るには、どんなところに気をつければいいのだろうか。

日本睡眠医学協会理事長大谷憲先生は、つぎのように述べている。

眠りとは、体と脳に休息をもたらすもの。眠りは、一日の疲れを取り除き、翌日元気に活動するために回復させていく。人間には、何百年もの歴史の中でプログラムされてきた活動と眠りのリズムがある。夕方3〜4時に体温は最高になり、体のエネルギー消費もピークとなる。反対に、早朝の3〜4時に体温は最も低温になり、体の機能がほとんど休息に入っている。

これを無視した生活リズムを繰り返していると、からだのリズムが狂い始めてしまう。ストレスを抱えたり、不眠症になるほか、いくら寝ても疲れが取れないなどといった症状に悩むようになる。とはいえ、仕事の関係から、そういうリズムに合わせて生活できない人も多いのではないだろうか。それゆえ睡眠には、「質のよさ」が必要になるのである。また、眠りは、休息という目的のほかに、人間の成長と細胞の再生に重要な役割を果たしている。それは、人間の体の細胞を再生させることだ。細胞によって再生するサイクルは異なるが、体全体では、6〜7年ほど。早いもので、胃の粘膜などが1〜3日、遅いものだと骨の細胞が6年くらいかけて入れ替わる。「眠り」こそ、細胞を再生し成長を促す大切な時間なのである。その再生がもっとも進む時間が午後10時から午前2時であるという。故に、夜10時から睡眠をとるのがベストといっている。

このつづきは、次号に掲載。

★感謝状授与

昨年度をもってご勇退されました末崎地区公民館関係役員5名に対し、末崎地区公民館から感謝状を贈りしました。

皆様、地域の融和と発展に大変ご尽力なさいました。心から感謝申し上げます。

受賞者（敬称省略）

船河原地域公民館長 村上利夫
小田地域公民館長 木村藤吉
中井地域公民館長 菅野和平
碁石地域公民館長 大和田吉博
三十刈地域公民館長 尾崎安弘

★末崎地区公民館役員並びに末崎町振興会役員

このたび役員改選により、つぎの方が役員となりました。よろしくお願い申し上げます。

書記 金野一郎